

86/BRZ Race 2019

Round 1 鈴鹿サーキット

2019.3.23-24



2019 Spring
SUZUKA CIRCUIT
86/BRZ Race Rd.1

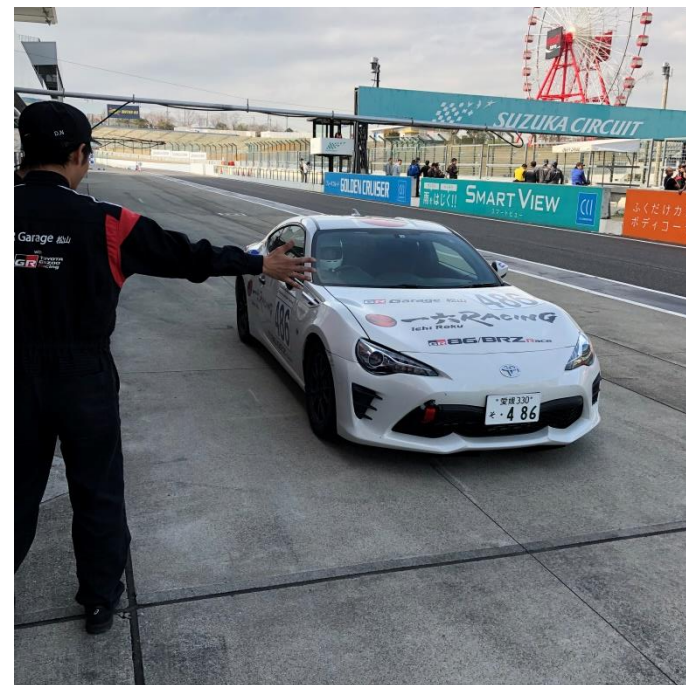
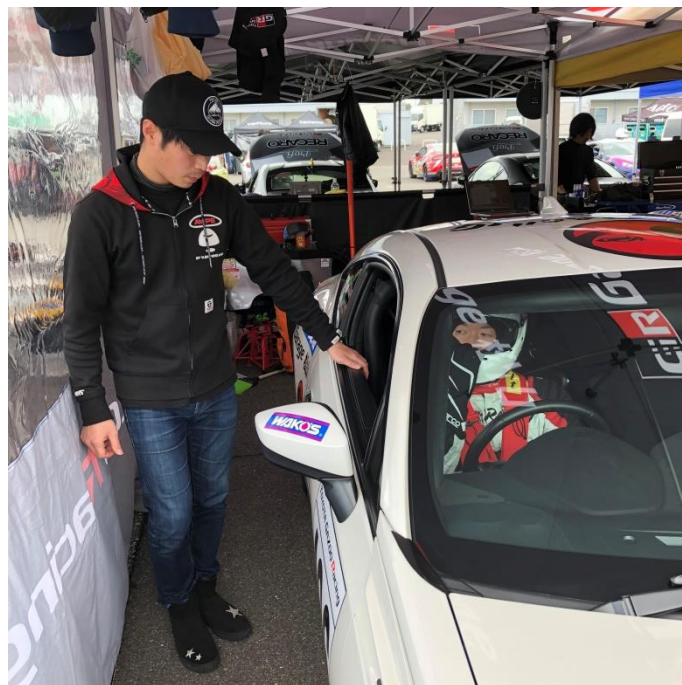
一六Racing Report

Vol.1

01

予選まで

Best Time 2' 36.69

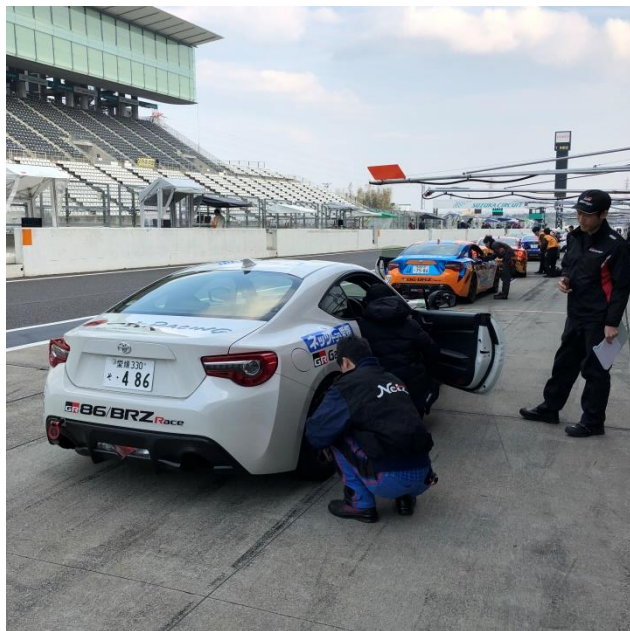


昨年10月のレースから約5か月振りとなる鈴鹿サーキットの走行。練習走行1本目からウェット路面の中での走行となり、タイヤのグリップが掴み辛く危ない場面もあったが、2本目・3本目と徐々にドライ路面へと変化する状況の中、少しずつ昨年の感覚を取り戻しつつある。翌日の占有走行では、昨年とほぼ同タイムを出して予選に臨んだ。

02

予選 11位

Best Time 2' 34.936



昨日までの走りを振り返り、改善点をまとめ予選に臨んだ。

アタック1周目から自己ベストを2秒近く上回るタイムを記録し一時は3位につけるが、続々とアタックする車両に抜かれ、予選を11位で終える。

クラブマンオープンクラスのベストは2' 32.573と

エキスパートクラスでも5位につけるほどのタイムを出すと同時に、このクラスのコースレコードを更新した。

03

決勝 8位

Best Time 2' 36.226



予選の通り11番グリッドからのスタート。スタート直後、前方車両のスタートミスに巻き込まれ2台に抜かれてしまう。

1・2コーナーは大渋滞のままターンイン、その後、デグナーコーナー2個目で前方の2台がクラッシュした。このクラッシュにより順位を11位に戻した。

周回を重ね、ダンロップコーナー立ち上がりで2度オーバーテイクに成功し、順位を9位まで上げる。そしてそのままチェッカーを受ける。

レース後、上位車両にペナルティがあり順位を1つ繰り上げ
8位で開幕戦鈴鹿を終えた。

2017年の新年総会でGR Garage立上げ挑戦を発表してから2年余り、
ついにこの舞台に立てたことを本当に嬉しく思います。
と、同時にこれまでがんばってくれたGR Garage松山メンバーには
感謝の想いで一杯です。

今年50周年を迎えたネッツトヨタ愛媛のこれからの方向性として
「お客様に安全・安心をお届けすること」と「クルマファンづくり」が
あると思っていますが、この両方を実現するのが『一六レーシング』です。

今回、初めてGRメンバー以外のエンジニアが参加してくれたことで、
「お客様に必要とされる人づくり」に繋がると感じました。

これからも会社全体で『一六レーシング』を自分たちのチームとして
応援いただき、積極的に参加してもらえることを期待します。

最後になりますが、総合プロデューサーである脇阪 寿一さんは我々の
活動を誰よりも応援してくれてますし、期待にみんなでお応えしましょう！

チーム代表 玉置 竜

チームアドバイザー 川端 伸太郎

今回、予選では実力から比べると少しまとめきれずに終えた印象ですが、決勝ではその鬱憤を晴らすような走りでした。
プロジェクト開始から2レース目とは思えないオーバーテイクもあり、高村ドライバーにはとても興奮させられました。
また、今回からGR Garageのメンバーだけでなく他店舗からのメンバーも加わり、レースの楽しさ、普段とは違う環境下でのメンテナンスの難しさ、普通では体験出来ない様々な事を学んで頂けたかと思います。
このような各々の学びが、ネッツ愛媛全体の発展につながればと思います。

ドライバー DRIVER

GR Garage 松山 高村 浩平



たくさんのご声援いただきありがとうございました。
まずは昨年のリベンジができたことにホッとしています。
練習走行から徐々に自分の中で乗れてきている感覚があったので、予選では自己ベストがでそうな予感はしていました。ですが、さすがに2秒近く更新できるとは思っていませんでしたが…。
エンジニアのみなさんが自分が走った後の車両を懸命に整備してくれるのを見て、「何としても走りで応えたい」という気持ちがすごく高まりました。
自分にできるのはそれくらいでしたので、結果的に走りで応えることができて良かったです。
次戦の富士は実際に走ったことのないサーキットですし、不安な部分が多いですが、「車を正確に安全に目的地に運ぶ」というドライバーの仕事を全うできるよう頑張ります。

GR Garage 松山 西山 大智



エンジニアが各店舗から一人ずつ参加して参戦する初めてのレースとなりました。初日は橋田君（インター）と原君（空港通）の二名での作業となり、練習走行3回目より八木さん（今治）と山崎君（問屋町）が加わりレースを迎える形となりました。

レースという初めての環境、普段同じ工場と一緒に作業することのないメンバーということもあり、始めは連携がうまく取れないこともありましたが、レースに限ったことではありませんが、安全作業にはやはりお互いの意思疎通、声掛けというのはとても大事だと思います。ピットレーンでもデータ収集や内圧調整などしていますが、パドック（整備のために設けられた区画）を出れば、車両に対してできることはなく、それまでにドライバーが安心して操作できる

マシンにすることがメカニックの役割です。短い時間ながらも八木さんを中心に現場の雰囲気が和らぎ、最終的には全員でスムーズに作業を進めることができたように思います。

決勝レースでは、クラッシュによってモニターに映し出された白い車両を見て『一六レーシングのマシンではないか？ドライバーは大丈夫か？』と全員でひやひやする場面や、オーバーテイク（前車を追いぬくこと）もあり、たった30分の間でしたが、その場面の変化に何度も何度も一喜一憂し、結果として完走だけでなく8位入賞、3ポイントを獲得という、とても良い結果をみんなで分かち合うことができたと思います。

J.spot今治 八木 竜矢



まず、参加して良かったと思います。あの空間を味わえたのはいい経験だと思います。

レースがあんなに朝が早いとは意外でしたが。(笑)

玉置常務の50周年行事、車好きを増やす活動でレースに参戦していく取り組み、仕事をしていく中でただ当たり前のことをなানাあとするのではなく、一人一人が興味を持ち良いレースができる環境をドライバーに提供していくのは、通常業務にも繋がると思います。

レースでは走ってみて、「次はこうしよう、その次は、その次は…」となりますが、通常業務では“いつ誰がどの形でどのように車に乗っているのか”確認できないため、来店していただいたお客様の車を見てベストなタイミングで、良い整備、良い商品を提供することに繋がると信じています。



J.Spot松山インター 橋田 直樹

今回、86/BRZ Raceにメカニックとして参加しました。初めての参加で分からないことだらけだったのですが、西山さんに教えていただきながら作業しました。普段の作業とは違い、作業も限られたスペースでしかできないため苦戦する場面もありましたが、無事に高村さんをレースに送り出すことができました。結果として、8位入賞することができ、一六RACINGのチーム全員で喜び合うことができました。

また、プロデューサーの協阪さんは「モータースポーツをメジャースポーツにする」とおっしゃっていました。ネッツ愛媛からモータースポーツをもっともっと盛り上げる為にも、社員の方にも少しでも興味を持っていただきたいと思います。



J.Spot問屋町 山崎 龍河

自分が今までレースを見に行ったり参加したりする経験がなかったので、とても良い体験をさせていただきました。

自分が作業した車がレースを走ることによって不安と期待が交じり合った感覚がありました。無事に高村さんがレースを終えた時、ホッとしたような自分がいました。

このような体験はこのレースに参加していなければ経験できていないと思いますので本当に参加して良かったと思います。また機会があれば参加したいです。



J.Spot空港通 原 亮吾

今回初めてのレースの参戦でかなり緊張しました。

自分にとっても良い経験ができ成長できたと思います。

また、今回の体験で自店舗だけでなく、他店舗のスタッフと関わることで、情報の共有や関係を深めることもできました。

今回のように店舗から1人ずつ研修をし、その情報を店舗に持ち帰り1人でも多くのスタッフへ広めることで、レース活動に興味を持っていただけるよう広めていきたいと思っています。



GALLERY





GALLERY





GALLERY





NEXT BATTLE_4.20-21 86/BRZ Race Rd.2